

生野区巽神社にて

平成20年7月25日(金)

菓子は人々に「癒し」と「夢」と「笑顔」をもたらします。口にほおばった時の味わいや色とりどりの季節感あふれる果実などは老若男女問わず「心の平和」へと導いてくれます。

私たちは地元根付いた「菓子屋」として地域社会との結びつきを大切に、まちづくりのお手伝いをさせていただきたいと考えております。

製造販売関係者約40名が参加 菓子開き

丹精込めて大事に作り上げた菓子をご祈禱していただき、参拝していただいた多くの方々へ少しずつお分けして食べていただくことにより菓子を通して生野区南巽と弊社きむら菓子製作所の発展を祈るものです。

今回は生姜の風味と柚子の香りが楽しい新製品「巽神社ロール」を皆様に召し上がっていただきました。



日頃体験することのない空間。緊張した面持ちで参加した製造スタッフでしたが供養祭が無事終わりホッとした様子。



今回「菓子供養祭」として行われた行事ですが、今後一年に一度、恒例行事「菓子まつり」として巽神社とともに行う予定です。

菓子を通じて子供からお年寄りまで参加できる楽しい「おまつり」にしたいと思っております。

夏祭りや秋祭り同様、「菓子まつり」にもぜひご期待ください。



お神酒をいただく手にも緊張感が…。

菓子供養

日々感謝の気持ちを大切に……………

美味しく安心安全なお菓子に上げる また酷使、破損した製菓器具にもまでには試行錯誤を重ね、作り手が感謝の意味を込めて供養していただきず納得できるものとして仕上げなければなりません。その結果、やむを得ず果たしてくれていることを忘れてはなりません。日頃から思いやりと感謝の気持ちを込めて日々邁進して行かねばと考えております。

また味に関してはまったく問題はないものの形状が規格外であったり、搬送途中で形崩れたりしてお客様にお出しすることができない製品も時には出来上がってしまいます。愛情を込めて作ったにもかかわらずお客様の口に入らず無念にも捨てられる…私達にとっては誠に不甲斐ない思いですが、これまで作ってきた菓子の気持ちを考え、感謝の気持ちを込めて巽神社田中宏美宮司、ごんねぎ菓子供養祭を行うこととなりました。



開発途中の製品や使い古された製菓器具



散策：生野区 巽神社

明治40年4月27日、旧渋川郡巽村内にあった八幡神社(祭神 応神天皇)に、村内の5社(大地宇印地の横野神社(式内社。祭神 印色入日子命)・伊賀ケ字伊賀ケの天神社・西足代字霞の内の天照皇大神社・矢柄字宮の前の熊野神社・四条字山小路の天神社)を合祀し、村の名をとって巽神社と改称したといわれています。

夏祭りや秋祭りには迫力満点のだんじりが!